

『歯科薬物療法学 第7版』訂正表 (第7版第1刷)

2022年3月

ページ	行・箇所	訂正前	訂正後
目次(総論)	左段 2	1. 原因(病因)療法	1. 病因(原因)療法
23	上吹き出し内 7	陽性変力作用心拍数	陽性変力作用：心拍数
23	26	M ₂	【削除】
24	3, 5	M ₂	【削除】
42	1	乳酸,	【削除】
48	20	吸収された薬物の総量を示す.	吸収された薬物の総量の指標となる.
55	表 6-1	サルチル酸	サリチル酸
58	アドバンス スタディ ・薬物相互作用 表	アムロジピンベシル	アムロジピンベシル酸塩
64	8 クイックテスト	1) 喘息発作は夜間に起りやすい	1) 喘息発作は昼間に起りやすい
66	(Step by step 中 語句の説明) 9	スチープンス・ジョンソン	スティープンス・ジョンソン
79	23	局方作用	局所作用
83	16	これらの症状が離脱症状あるいは,	これらの症状が離脱症状あるいは,
83	35	ゲンタシン	ゲンタマイシン
85	32, 34	小児薬用量:	小児薬用量 =
85	表 10-1	薬容量	薬用量
116	表 13-1	N ⁻	N-
127	12, 14	てんかん重責	てんかん重積
128	8	関わっておいるため,	関わっているため,
128	10	神経伝達物質の放出制御と介して	神経伝達物質の放出制御を介して
128	32	薬物過敏性症候群 (DIHS)	薬剤性過敏症候群 (DIHS)
129	2	薬物過敏性症候群 (DIHS)	薬剤性過敏症候群 (DIHS)
130	20	優勢遺伝性パーキンソン病	優性遺伝性パーキンソン病
132	11	L-ノルアドレナリン	l-ノルアドレナリン
134	4	4) 症状	3) 症状
134	20	5) 抗精神病薬が有効な精神状態	4) 抗精神病薬が有効な精神状態
134	24	6) 統合失調症の治療薬	5) 統合失調症の治療薬
135	9	アンタドニスト	アンタゴニスト
136	11	考えられている.	考えられている.
140	14	ホルモテロールフマル酸水和物	ホルモテロールフマル酸塩水和物

【裏面につづく】

143	32	拡張させるため、	拡張させるため、
147	13	一酸化炭素 (NO)	一酸化窒素 (NO)
150	中吹き出し内 1	ADP (action potential duration)	APD (action potential duration)
150	8	ADP 延長	APD 延長
150	10	ADP 短縮	APD 短縮
150	12	ADP 普遍	APD 不変
150	21	アミロダロン	アミオダロン
152	4	フィブリノーゲン	フィブリン
165	24	フェザフィブラート	ベザフィブラート
165	24	血清トルグリセリド	血清トリグリセリド
177	図 18 -2	PGD2, PGF2 α	PGD $_2$, PGF $_{2\alpha}$
194	19	ナスタチン	【削除】
194	(上段 Step by step 中) 3	ナスタチン	【削除】
204	表 19 -2	ナスタチン	【削除】
222	(Step by step 中) 2	菊科	キク科
229	7	(虚実)	(虚証)
229	12	考えられる	考えられる
229	15, 16, 17	瘀血症	瘀血証
230	20	さんみやく 数脈	さんみやく 数脈
233	22	シャクヤクカンジントウ	シャクヤクカンゾウトウ
235	クイックテスト 解答 3 薬理作用	4) ○	4) ×
235	クイックテスト 解答 3 薬理作用	6) ×	【削除】
241	参考文献	【追加】	124) 宮田直樹. 医薬品の名前 ステムを知らばクスリがわかる. じほう, 2013, 271p. 125) “偽アルドステロン症”. PMDA. https://www.pmda.go.jp/files/000144115.pdf
242	左段 16	ADP (action potential)	APD (action potential duration)
243	左段 51	アミロダロン—————150	アミオダロン—————150
243	左段 53	アムロジピンベシル—————58	【削除】
243	左段 54	アムロジピンベシル酸塩—————67, 68, 144	アムロジピンベシル酸塩—————58, 67, 68, 144
245	中段 12	ゲンタシン—————83	【削除】
245	中段 13	ゲンタマイシン—————67, 70, 86, 87, 200	ゲンタマイシン—————67, 70, 83, 86, 87, 200
248	中段 22	ナスタチン	【削除】